

2024.06.20

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
令和 5 年度事業報告書

事業環境

令和 5 年度は、コロナ感染症が第 5 類感染症に移行するなど、経済正常化が進み、賃上げもなされたが、急激に進んだ円安の影響で物価高騰が進んだことから、実質賃金は低下した。また、人手不足が顕著となり、企業経営に大きな影響を与えた一年となった。

海外情勢においても、ウクライナ戦争の継続、中東情勢の緊迫化など不安定な情勢が続いた。

このような状況下、会員活動の活性化を目指し、「場」としての PM コミュニティの活性化、「手段」としての資格・試験制度の内容の拡充、「指針」としての P2M ガイドブックの改訂を推進するとの方針のもとで運営を行った。また、これらを確実に推進するため、事務局機能の強化と、P2M 普及推進も併せて進めた。

PM コミュニティの活性化については、部会・SIG 活動、地域 PM 研究部会の活動情報の共有を図り、会員活動全国大会、地域 PM 研究部会全国会議を開催して、メンバー交流、活性化を図った。また、法人会員向けの新たな企画として、新春セミナー終了後に賀詞交歓会を開催し、法人企業などの関係者の交流を図った。

これらの活動を通して PM コミュニティの活性化を図ってきたが、個人会員の減少傾向については、残念ながら歯止めをかけることができなかった。今後、更なる会員メリットの向上施策の充実とその周知徹底を図る必要がある。

P2M ガイドブック改訂については、2 週間に一回のペースで委員会を開催し、令和 6 年 3 月までに委員会内の原稿の執筆を完了し、同年 8 月末に確実に発行すべく作業を進めている。

事務局機能強化については、Salesforce の導入により、利用者の潜在ニーズに対応した広報活動を進める基盤が出来た。P2M 普及推進については専門部会を設置して進めた。

P2M 資格試験・講習については、SNS 等を活用した P2M の普及活動や、研修のハイフレックス化、ミニ動画の提供などにより、全体としては目標値を達成する水準まで来ているが、PMR 2 次試験については実施できなかった。

PM シンポジウムは事前 PR の徹底などにより昨年を上回る参加者を得たが、他のイベントについては昨を下回る結果となった。

この結果、収入面では、トータルで予算より約 7,500 千円の増収となったが、支出面では予算より約 5,500 千円増となった。その結果、最終収支は、期首予想の 177 千円のプラスから、約 2,000 千円のプラスとなった（詳細は資料 1-2 参照）。

1. 全般運営

(1) 総会・理事会の開催

- ① 通常総会 1 回、定例理事会 4 回、臨時理事会 1 回をオンラインで開催した（表

7, 表 8 参照)。

② 運営会議を 11 回オンラインで開催した (表 9 参照)。

(2) 新役員の選任

6 月 22 日 (木) 開催の定時総会において、新任理事 3 名、退任に伴う交代理事 8 名が選任され、5 名の理事が退任となった。この結果、理事総数は 2 名減って 46 名となった。また、監事 1 名が退任し、1 名が新任された。

2. PMAJ 施策

(1) 会員 (法人・個人)

- ・法人会員は企業合併による退会 2 社、新規入会 6 社となり、4 社増の 88 社となったが、目標には達しなかった。
- ・個人会員は 820 名となり、昨年同時期に比べ 29 名少ない状況となり、減少傾向に歯止めをかけるまでに至らなかった。
- ・会員獲得の施策として、部会・SIG や地域 PM 研究会を通しての入会呼びかけ、PMAJ News による発信、紙媒体での呼びかけ、PM シンポジウム・各セミナーの幕間動画での入会呼びかけ、ホームページ上の会員専用ページの動画ライブラリーのメニューの充実や会員のメリットを解説した動画を公開、YouTube、Facebook、LinkedIn など IT を活用した勧誘を行ったが、個人会員の増加に結びつかなかった。
- ・理事に対して、法人会員候補者の紹介への協力呼びかけを今期も行った。
- ・会員向け無料セミナーを行い、受講証明書の発行を行った。

(2) 部会・SIG 活動

- ・「部会 SIG 会員活動交流タスク」を通して、部会・SIG 活動が円滑に運営できるようにサポートを行い、会員活動全般の活性化を図った。
- ・「PMAJ 会員活動全国大会 2023」を 11 月に開催し、「地域 PM 研究部会・全国会議」を 2 月に開催し、活動を共有するとともに、メンバーの交流を行った。
- ・PM シンポジウム 2023 において 8 つの部会・SIG から会員活動講演を行った。
- ・部会・SIG、地域 PM 部会の活動内容を運営会議・理事会で報告し、状況の確認と活性化に向けた協議を実施した。
- ・部会等の IT 担当者と情報共有をして、自主運営体制を強化する IT 化のツールとして Google Workspace を提供し、運用を開始した。

(3) 組織・マニュアル関連

- ・HP 上の組織図を見やすいものに改訂した。
- ・在宅勤務に関する規定の整備を行った。

(4) IT 化・DX 化

- ・Salesforce を導入し、従来アクセスで管理していた会員情報、資格取得者情報などの移行を完了した。
- ・PM シンポジウム 2024 の受付システムの開発を行った。
- ・電子帳簿法対応として、楽楽明細を 6 月に、楽楽精算を 9 月に導入した。

- ・リモートワーク体制の確立、IT 環境整備を実施した。
- ・メールセキュリティの対策が強化される中、セキュリティ対応が可能なサービスの導入を行い、配信が確実に実施されるよう対策を実施した。

(5) 広報・マーケティング

- ・メルマガ、PMAJ News、PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルの発行を行い、活動内容の発信や行事への参加者募集を行った。
- ・個人正会員宛に、紙媒体にて、PMAJ ジャーナル抜粋、コンテンツの充実の通知を行った。
- ・Facebook 広告の継続、LinkedIn 等での発信、YouTube 動画の継続的更新を行うとともに、X (Twitter) アカウントを開設した。
- ・PM シンポジウム、各セミナーの幕間において、PMAJ の紹介・宣伝の動画を流した。また、PM シンポジウムにおいて PMAJ を紹介する講演を行った。

(6) P2M 標準ガイドブックの改訂

- ・2 月までで 45 回の改訂委員会を開催し執筆を進めている。4 月からは出版社の編集と、査読委員によるレビューを並行して実施し、8 月末には発行できるように作業を進めている。
- ・記述内容は、イノベーションを継続的に生み出すモデルとして提唱された Innovation Pentathlon Framework を参考として「P2M 事業モデル」を設定し、3S モデルの流れ（構想⇒構築⇒運用）に沿った記述とする。
- ・第 3 版で分かりづらいという指摘のあった点、冗長であった部分を見直し、整合性のとれた、分かりやすいガイドブックとする方針で執筆を進めている。

(7) 他団体との連携

- ・P2M 普及・推進部会の活動として、デジタル庁、情報処理推進機構(IPA)に対し、P2M の概念の紹介を行い、ガイドライン等への取り込みを依頼する活動を行った。
- ・エンジニアリング協会 (ENAA) との連携を継続し、ENAA のビジネス講座に講師として参画した。
- ・PMI 日本支部、JUAS、技術士会、情報処理推進機構(IPA)、学会、各地域大学などとの連携・交流を行い、P2M の普及に努めた。
- ・10 月に米国アトランタで開催された「PMI GLOBAL SUMMIT 2023」に参加した。

(8) グローバル対応

- ・GAPPS Thought Leadership Forum (TFL)への参加を継続し情報を教宣した。
- ・PMI® ATP を継続し、PDU の発行や PMI®関連部会セミナーを実施した。
- ・PMI® と ENAA 及び PMAJ による 3 者協定（覚書）に基づく活動は、PMI®側の都合より休止している。
- ・NIN2.P2M (Facebook) PM 教宣の為に PMAJ の教材を英訳し毎週投稿。PMAJ 出版「プロジェクトの概念」の投稿 (2022/05---) を継続。
- ・グローバル PM-SIG にて英文 HP の仕組みを含め教宣内容を協議した。

(9) 会員・資格者交流活動

- ・様々なテーマを広く議論する「横の交流会」として「P2M クラブ」を 7 回、特定テーマを深く議論する「縦の交流会」として「夢工学サロン」を 5 回開催した。

- ・「横の交流会」としての「P2M クラブ」は、毎回テーマを変えて議論した。
- ・「縦の交流会」としての「夢工学サロン」は、提唱者から「夢工学」について深く議論することを目的に、通算 11 回開催した。あと数回で終わるので、その後、次のステップに移行する予定。

表 1【会員数】

	令和 5 年度 計画	令和 5 年度 上期実績	令和 5 年度 通期実績
法人会員	90 社	87 社	88 社
法人正会員	74 社	71 社	72 社
法人賛助会員	1 社	1 社	1 社
法人特別会員	15 社	15 社	15 社
個人正会員	900 名	770 名	820 名

表 2 <会員会費収入>

(単位：千円)

	令和 5 年度 計画	令和 5 年度 上期実績	令和 5 年度 通期実績
法人会員会費等収入	9,360	9,038	9,038
個人会員会費等収入	5,950	4,845	5,147
会費等収入計	15,310	13,882	14,185

3. PM 人材育成事業 (PM 資格試験・認定等)

(1) P2M 資格試験

- ・ 2 月 PMS 資格試験は応募者 125 名となり、2016 年 2 月(応募者 114 名)以来の 100 名超えとなった。「高度 PM 人材育成」を情報公開している企業、P2M を活用した社内研修を実施している企業の受験者が多かった。今年度の応募者は 194 名で、CBT 化後では、2015 年度(応募者 249 名)に次ぐ応募者数であった。このことは、プログラムマネジメントに魅力を感じ PMS 資格試験を受験する人が増えていることを示すと思われる。
- ・ PMC、PMSp は若干未達であるが、PMS がカバーし全体では計画値を達成した。
- ・ PMR は昨年度と同様の募集活動を実施し、PMS 資格者に郵送で募集をかけたが一次の受験者が 2 名となり、二次試験が中止となった。

(2) P2M 講習会

- ・ 参加方法が自由に選択できるハイフレックス型講習会が好評で PMC 講習会は 9 月と 1 月開催で 20 名を超えた。企業別ではエンジ、原子力、建設、IT 分野の団体受講、県の補助金を利用した企業があり年度予算を達成した。
- ・ P2M 講習会全体の売上は計画値の 117%となった。
- ・ Google アナリティクスを GA4 へ切り替え、Google 広告の最適化等を実施した。
- ・ マナビ DX のサイトに PMC 講習会に加え、P2M プログラム知識習得講座を DX 推進スキル標準に対応した講座として登録した。
- ・ ミニ動画講座、オンライン講座の売上は累計 230 万円となった。

(3) 企業・団体・大学向け PM 講座

- ・団体向けの海外人材育成のための PM 研修 8 件を実施した。
- ・IT 系企業のサービス企画部門から 3 年連続で P2M プログラムマネジメント研修依頼を受けた。

(4) その他講習（特別企画講座・共催講座）

- ・特別企画講座は、8 講座の開催予定に対して、7 講座開催した。
- ・共催講座は、共催企業と開催方式の改善や新規講座について協議し、下期に 9 講座増やし、YouTube を活用した結果、4 講座の申込を得た。

表 3 【P2M 資格試験 応募者数】

資格試験種類	令和 5 年度 計画	令和 5 年度 上期実績	令和 5 年度 通期実績
PMS 資格試験	160 名	31 名	194 名
PMS プログラム試験	110 名	34 名	96 名
(PMS 計)	270 名	65 名	290 名
PMC 資格試験	420 名	67 名	396 名
PMR 資格一次試験	7 名	0 名	2 名
PMR 資格二次試験	6 名	0 名	0 名

表 4 【P2M 講習会 受講者数】

講習会種類	令和 5 年度 計画	令和 5 年度 上期実績	令和 5 年度 通期実績
PMC 講習会	63 名	29 名	73 名
e ラーニング	344 名	177 名	375 名
P2M-プログラムマネジメント 知識習得講座	18 名	8 名	20 名
e ラーニング	56 名	30 名	95 名
PMR 養成研修	7 名	2 名	2 名

表 5 【PM 人材育成事業収入】

(単位：千円)

	令和 5 年度 計画	令和 5 年度 上期実績	令和 5 年度 通期実績
P2M 資格試験	21,938	7,324	23,237
P2M 講習会	12,023	5,763	14,023
研修(団体・企業)	9,202	6,403	11,032
各種 PM 講座(PMP 関連、特別、共催)	1,750	820	1,885
事業収入計	44,913	20,337	50,177

4. P2Mに関する普及・啓蒙事業

(1) PMシンポジウム

外部環境として、スポンサー付の無料講演会が増加していることの影響が大きいと考え計画を立てたが、企業の担当窓口に早期に事前PRを行ったこと、受付システムの運用を簡素化して受付システムを予定通り安定的に稼働できたこともあり、昨年以上の参加申込=1,222名（前年=1,209名）となった。

(2) 東京地区開催のPMセミナー

11月9日：産学官連携PMセミナー参加申込=89名（前年=101名）、
1月26日：新春PMセミナー参加申込=461名（前年=539名）両セミナー共に前年割れ。メディア各社とスポンサーによる無料セミナーの影響を真面に受けた。

※新春PMセミナー終了後、PMAJとして初の“賀詞交歓会”を法人正会員様に連絡し開催した。参加者の皆様に好評であり毎年継続の必要性を強く感じた。

(3) 地域開催のPMセミナー 合計=448名（前回=509名）

6月9日：関西PMセミナー参加申込=111名（前年=137名）、
7月21日：北海道PMセミナー参加申込=110名（前年=108名）
10月13日：中部PMセミナー参加申込=40名（前年=51名）
10月27日：中四国PMセミナー参加申込=28名（前年=47名）
11月22日：東北PMセミナー参加申込=21名（前年=31名）
12月8日：九州PMセミナー参加申込=55名（前年=72名）
2月16日：沖縄PMセミナー参加申込=83名（前回=63名）

※コロナ禍の4年でリモート参加・視聴が7割を占め、遠い地域のセミナー講演も珍しくなく、講演に特長を持たせる必要がある。

(4) 例会（東京・関西）

- ・全12回のうち3回で、部会SIGからの発表を組んだ。
- ・みどり市長の講演を地域創生支援として無料開催するなど、参加者増に努め、PEATIXのフォロワー数は800人を超えた。

表6 【PM普及・啓蒙による事業収入】 (単位：千円)

	令和5年度 計画	令和5年度 上期実績	令和5年度 通期実績
PMシンポジウム	31,005	35,290	35,363
東京地区PMセミナー	3,000	0	3,159
地域のPMセミナー	2,000	1,060	1,927
例会・書籍販売等	3,885	358	828
	39,890	36,708	41,277

表 7. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2023.6.22	通常総会	417名	令和4年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和5年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員候補者選任の件(案)	可決 可決 可決

表 8. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2023.6.1	定例	42名	令和4年度事業報告及び収支報告について	承認
				令和5年度事業計画及び予算について	承認
				役員候補者選任の件	承認
				PMAJ イベント状況報告及びPMシンポジウム状況報告	承認
				部会・SIG活動状況報告	承認
				P2M普及及びガイドブック改訂状況	承認
				会員状況について	承認
2	2023.7.1	臨時	42名	役職役員の選任について	承認
3	2023.10.19	定例	42名	令和5年度上期事業報告について	承認
				PMシンポジウム2023結果報告及びPMAJイベントの状況について	承認
				部会・SIG活動状況報告及び地域PM研究部会活動状況報告	承認
				P2Mガイドブック改訂作業の現状について	承認
				会員状況について	承認
4	2023.12.21	定例	39名	令和5年度第3四半期及び通期事業見通しについて	承認
				PMシンポジウム2023アンケート結果及びPMシンポジウム2024の状況について	承認
				新春セミナー及び賀詞交歓会概要とPMAJイベントの状況について	承認
				部会・SIG活動状況報告及び地域PM研究部会活動状況報告	承認
				P2Mガイドブック改訂作業の現状について	承認
				会員状況について	承認
5	2024.3.21	定例	38名	令和5年度通期事業見通しと令和6年度事業計画骨子について	承認
				PMシンポジウム2024状況報告	承認
				PMAJイベント状況報告及び来年度イベントスケジュールについて	承認
				部会・SIG活動状況報告及び地域PM研究部会活動状況報告	承認
				P2Mガイドブック改訂状況について	承認
				会員状況について	承認

表 9. 運営会議

回	開催日	備考	回	開催日	備考	回	開催日	備考
1	2023.4.18		5	2023.9.19		9	2024.1.16	
2	2023.5.16		6	2023.10.17		10	2024.2.20	
3	2023.6.20		7	2023.11.21		11	2024.3.19	
4	2023.7.13		8	2023.12.21				

表 10. P2M 講習会実施状況（受講者数推移）

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得	PMR 養成研修
5月	2名	5名	—
7月	7名	2名	—
9月	20名	1名	2名
11月	17名	8名	
1月	20名	4名	
3月	7名	0名	
計	73名	20名	2名

表 11. PM 一般研修

区分	開催日	テーマ等	参加者
PM 研究研修部会セミナー	2023.12.15	第 53 回 PM 研究・研修部会セミナー	11 名
	2024.3.15	第 54 回 PM 研究・研修部会セミナー	27 名
PMBOK®ガイド関連講座	2023.6.17	第 2 回 PMBOK (R) ガイド第 7 版講座	4 名
	2023.9.16	第 44 回 PMBOK (R) ガイド基礎講座	3 名
	2023.10.21	第 3 回 PMBOK (R) ガイド第 7 版講座	3 名
	2024.1.20	第 45 回 PMBOK (R) ガイド基礎講座	5 名
	2024.2/3,10,17	PMBOK (R) を実践するためのプロセスベース詳細講座	7 名
	2024.2.24	第 4 回 PMBOK (R) ガイド第 7 版講座	7 名
PMAJ 特別企画講座	2023.5.19	世界の PMO 動向 (片江)	35 名
	2023.6.2	アジャイル開発への道案内 (小原)	2 名
	2023.6.23	『高度な課題解決力』を身に着ける『ものごと継承法』(吉野)	12 名
	2023.7.21	DX 時代の勘所 「プログラムマネジメント現場適用」(近藤)	10 名
	2023.9.15	PM 成功ノウハウが見える化し伝える技法 (吉野)	7 名
	2023.12.15	『高度な課題解決力』を身に着ける『ものごと継承法』(吉野)	7 名
	2024.3.8	PM 成功ノウハウが見える化し伝える技法 (吉野)	4 名
PM 共催講座	2023.11.20	事例に学ぶ PMO の立上げと運営 (PMO)	1 名
	2023.12.6	コンセプトチュアルスキル入門～本質を見極め、行動するスキル (PMO)	1 名
	2024.1.22	PM 養成講座 (PMO)	1 名
	2024.2.28	プロジェクト計画書の作り方・書き方・活かし方 (PMO)	1 名

表 12. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
284回	2023.5.26	吉田 則子	チーム力を高めるためにできること	43名
285回	2023.6.23	須藤 昭男	みどり市における地域創生への挑戦	50名
286回	2023.7.28	芝尾 芳昭	プログラムを成功に導くチェンジマネジメント	29名
287回	2023.8.25	荻谷 大介	大規模プロジェクトの PMO に求められること	50名
288回	2023.9.29	野原 秀樹	より良い人間関係構築へのプロセスを理解し、成果を創出するチームへ!!	23名
289回	2023.11.24	鈴木 和夫	プロジェクトマネジメント視点での『仕事と暮らしを結ぶ情報学』	28名
290回	2023.12.22	大谷 紀子	個人の感性に即した AI による自動作曲とその応用	25名
291回	2024.2.22	向後 忠明	顧客（ユーザ）要件とそれに応じた契約	31名
292回	2024.3.22	内田 勝也	セキュリティ心理学ってなに？	35名

表 13. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
162回	2023.4.28	積 高之	Web3 時代のマーケティング	19名
163回	2023.10.20	橋本 靖	世界自動車電動化（EV シフト）の実態	25名
164回	2024.1.19	石橋 伸介	初心者向け PM 研修の経緯と実践	19名

表 14. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
76号	4月	新春 PM セミナー2023／投稿レポート／PMR 資格試験挑戦
77号	8月	関西 PM セミナー2023／投稿レポート
78号	11月	PM シンポジウム 2024

表 15. 地域 PM 研究部会の活動報告

No	名称	活動状況等	
地域 PM 研究部会	1	北海道 PM 研究部会	2023年7月21日(金)に北海道 PM セミナー を開催
	2	東北PM研究部会	2023年11月22日(水)に東北 PM セミナーを開催
	3	中部PM研究部会	2023年10月13日(金)に中部 PM セミナーを開催
	4	中四国 PM 研究部会	2023年10月27日(金)に中四国 PM セミナーを開催
	5	関西 PM 研究部会	2023年6月9日(金)に関西 PM セミナー を開催
	6	九州PM研究部会	2023年12月8日(金)に九州 PM セミナー を開催
	7	沖縄 PM 研究会	2024年2月16日(金)に沖縄 PM セミナー を開催